

宇都宮市立桜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童の割合は100%で、国の平均を大きく上回っている。自己肯定感の高さが伺える。一人一人のよさを認め、自分の成長を実感できるような活動を積極的に取り入れたことや、各家庭と協力し、情報を共有して認め励ます機会を増やしたことで自己肯定感の高まりが見られたと考えられる。今後も、自分で考えやり遂げ達成感を味わうことで、自分に自信をもって主体的に活動する児童を育成していきたい。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合は100%だった。継続して、一人一人のよさを認めていきたい。

○「朝食を食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合は100%で、国の平均を上回っている。朝の生活について、規則正しい習慣が身に付いていると考えられる。「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は国の平均を下回っている。今後も家庭と連携し、よりよい生活習慣の定着を目指していきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の割合は89.9%で、国の83.1%を上回っている。今後も授業や行事などの活動において目標を明確に設定し、それに向かって取り組めるようにしていきたい。また、総合的な学習の時間の職業について調べる学習において、自分の適性を考えながら自分に合った職業や具体的な目標を見出し、「なりたい自分」を見付け、それに向かって努力していけるよう指導していきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の肯定割合は90.9%で、国の83.3%を上回っている。学級で起きた諸問題や話し合いしたい議題について、一人一人が自分の考えをもち、話し合いを積極的に行った結果である。今後は、学級活動の話し合いから努力するべきことを明確にし、継続して取り組んでいけるよう実践の方法を工夫したい。

●「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている」の割合は、75.8%で、国の81.8%を下回っている。今年度の本校の研究にもなっている「書くこと」についての指導に重点を置き、自分の伝えたいことを明確にした文章を書くことができるよう指導していきたい。

●PC・タブレットなどのICT機器についての質問で、「文章を作成することができる」の割合は87.9%で国の81.8%を上回っている。その反面、「情報を整理することができる」「学校のプレゼンテーションを作成することができる」の割合はどちらも63.6%で、国の平均を下回っている。今後は、集めた情報を整理し、伝えたい方法を選んで資料を作る学習を意図的に取り入れたい。また、それらをもとに伝えたいことが相手に伝わるよう、工夫しながら発表する活動を積極的に取り入れていきたい。

●算数に対して苦手意識をもっている児童が約半数いる。少人数クラスでの学習の充実を図り、個に応じた課題を設定することで分かる！楽しい！を味わえるようにし、算数への苦手意識を減らしていきたい。

宇都宮市立桜小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣	自分で計画を立て、家庭学習に取り組む ・「家庭学習のすすめ」の活用 ・「家庭学習のヒント」の活用	「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか」の肯定割合が84.8%。国の平均より3.1ポイント高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の肯定割合が75.8%。	自分の考えをまとめ、書く力を育成する取組	国語科を中心として、全教科で書く力を育成 ・言語活動の充実 ・書く機会の充実